

## カントウタンポポ (関東タンポポ)

名前の意味：関東地方に生えるタンポポの意味。たんぽぽは鼓つづみの音をこひょうげんう表現した。子供の遊びで花茎を鼓つづみの形にして遊んだことによるという。

分類：双子葉類、キク科、タンポポ属

(キク科の栽培植物さいばいしょくぶつ：ヒマワリ、フキ、レタス、ゴボウ)

好きな場所：日当たりのよい道ばた、空き地、庭

分布：本州

原産地：昔から日本に生えていた (自生じせい)

特徴：地面を丸く覆うぎざぎざの葉、ちぎると出る白いしる、黄色い花

種子の運ばれかた：風に飛ばされる

花弁の数：合弁ごうべん、5裂れつ (たくさんの花が集まってひとつの花に見える。1つの花の形は小さくてよく見えない)

花の時期：4－5月

食べ方：若葉をサラダ、根はきんぴら、花は酢すの物にする。

見分け方：セイヨウタンポポ、アカミタンポポとは、総ほう片が反り返らないこと、シロバナタンポポとは、花が黄色いことで区別できる。

注：最近では、セイヨウタンポポとの雑種がかなり見られる。

見つけやすさ ★★★

見分けやすさ ★★★★★

総合難易度そうごうなんいど ★★★

(★が多いほど量が少なく、見分けにくく、難易度が高い)